

# 第2次木津川市都市計画マスタープランにおける 進捗状況（R3～R6）報告について

※A:実施中（事業推進） B:検討中 C:未検討

## Ⅱ 全体構想

### （2）交通施設・公共交通の方針

#### 2）交通施設整備の方針

##### ① 道路の方針（P.64）

- ・主要幹線道路においては、整備促進が全体的に進んでいる。歩道拡幅整備事業では、国土強靱化の一環で R7 年度より電線地中化が実施される。
- ・幹線道路では、4 路線中 2 路線の事業が進んでいるが、残りの 2 路線では取組みが行われていない。
- ・補助幹線道路は、2 路線が令和 4 年度整備完了しているが、その他の道路では取組み実績は無い。
- ・生活道路は、取組み実績無しとなっている。

➤全体の評価としては、A:53%、B:18%、C:29%で、十分とは言えないが進捗は一定程度図れている。

※後期追加キーワード（案）：国土強靱化、電線地中化

##### ② 公共交通の方針（P.67）

- ・鉄道路線及び鉄道駅については、要望活動を実施し、近鉄木津川台駅へのアクセス道路整備推進及び駅前広場の整備に向けた方針の検討については、令和 3 年度工事着手し、令和 7 年 3 月に桁製作が完成した。
- ・バスにおいては、コミュニティバスの持続可能な運行を目指したダイヤ改正を実施したほか、「第2次木津川市公共交通網形成計画」の施策による市内バス無料 Day などを実施している。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

※追加キーワード（案）：スマートシティ、ダイヤ改正（鉄道）、市内バス無料 Day、交通弱者対応

### （3）都市・自然環境及び歴史的・文化的遺産の方針

#### 2）都市・自然環境及び歴史的・文化的遺産の方針

##### ① 公園・緑地の方針（P.70）

- ・公園・緑地に関して、公園照明灯の LED 化の維持管理、不動川公園を広域的防災拠点に指定した。今後は、広域的防災拠点をしでの整備を検討していく予定である。

➤全体の評価としては、A:80%、C:20%であった。

※後期追加キーワード（案）：公園リノベーション、広域防災拠点整備基本構想、公園照明灯のLED化

② 山林・里山等の自然環境及び農地の方針（P.72）

- ・「生物多様性第2次木津川市地域連携保全活動計画」に基づく里山保全の推進を行う一方、農業振興施策による農地の保全（R6年度8地区の地域計画策定）を行った。
- ・地域活性化を目的とした農産物・ブランド農作物の生産、市民農園等に対する動きはない。

➤全体の評価としては、A:50%、C:50%であった。

※後期追加キーワード（案）：生物多様性第2次木津川市地域連携保全活動計画

③ 都市施設等の緑化の方針（P.72）

- ・各社会教育施設においての植栽管理及び緑（ゴーヤ）のカーテン等を実施しているものの、道路、公園などにおける緑化は進んでいない。
- ・緑（ゴーヤ）のカーテンについて、初期・維持管理コストの観点から次年度より中止の予定。

※後期追加キーワード（案）：グリーンインフラ

➤全体の評価としては、A:33%、C:67%とやや進捗が鈍い。

④ 河川、ため池の方針（P.73）

- ・河川における親水空間やサイクリングロード等は概ね進捗が図れているが、ため池周辺の整備検討は進んでいない。

➤全体の評価としては、A:75%、C:25%という結果となった。

⑤ 生活環境の方針（P.74）

- ・環境負荷の低減などの視点に基づいた生活環境の確保・充実に関する取り組みは積極的に行われており、現在、公共下水道全体計画区域の見直し中である。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

※後期追加キーワード（案）：サーキュラーエコノミー

⑥ 歴史的・文化的遺産の方針（P.74）

- ・一部の史跡等の保全・整備と活用及び古寺巡礼バスの運行による観光客の誘客（春・秋 各1回）を実施している。一方、学習の場としての整備は滞っている。

➤全体の評価としては、A:67%、B:8%、C:25%で、十分とは言えないが進捗は一定程度図れている。

※後期追加キーワード（案）：木津川市文化財保存活用地域計画

## （4）市街地及び集落の方針

### 2）市街地及び集落の方針

① 中心都市拠点の整備推進（P.79）

## 資料 2

- ・市道木 335 木津山田川線の用地買収に着手した。また、地区計画による良好な市街地環境を維持している（R3～R6 届け出の実績 3 件：木津駅前地区計画）。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

### ② 都市拠点の都市機能の充実（P.79）

- ・国道 24 号城陽井手木津川バイパスと主要地方道枚方山城線の延伸工事の進捗を注視している。

➤全体の評価としては、A:50%、B:50%であった。

### ④ 木津駅東側地区の市街地形成に向けた検討（P.80）

- ・計画的な市街地形成に向けた検討として、年に一度地権者団体との懇談会、及び同団体による地権者向けアンケートが実施された。なお、農振農用地の見直しに向けた検討は未実施。

➤全体の評価としては、A:50%、C:50%であった。

### ⑤ 関西文化学術研究都市の整備（P.80）

- ・木津東地区では令和 3 年度に準備組合が組成し、現在、組合組成・事業化に向け作業中である。木津北地区では、R7 年 3 月付で第一種低層住居専用地域（かせやまの森）が自然共生サイトとしての認定を受けた。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

### ⑥ 既成市街地の方針（P.81）

- ・道路・河川等における維持管理を適切に実施している。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

### ⑦ 集落地区の整備（P.81）

- ・道路、法面等の生活基盤整備及び持続可能な集落環境づくりや空き家等の調査・適正管理要請の通知を実施した。なお、市街化調整区域における地区計画については動き無し。

➤全体の評価としては、A:80%、C:20%であった。

### ⑧ 国道 24 号城陽井手木津川バイパスの整備に併せた地域活性化の推進（P.81）

- ・国道 163 号との結節点で賑わい拠点としての「基本構想」を令和 5 年度 9 月に策定済み。

➤全体の評価としては、A:50%、B:50%であった。

## （５）都市景観形成の方針

### 2）都市景観形成の方針

#### ① 自然景観の形成（P.84）

- ・適切な維持管理及び保全を目的としたモニタリングが行われている。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

#### ② 田園景観の形成（P.84）

- ・農業振興施策を活用した田園景観の保全として令和6年度に地域計画を策定したが、田園景観の保全において新規指定はみられない。

➤全体の評価としては、A:50%、C:50%であった。

### ③ 歴史的景観の形成 (P.84)

- ・史跡恭仁宮跡 10,219㎡を公有化し、木津川市文化財保存活用地域計画を作成した。また、上狛茶問屋、上狛環濠集落などをHP、チラシ等で魅力発信し、船屋雛まつり開催した。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

※後期追加キーワード（案）：木津川市文化財保存活用地域計画

### ④ 道路景観の形成 (P.85)

- ・沿道緑化については、地区計画（R3～R6 届け出の実績 193件：垣柵設置 166件・屋外広告物 32件の計 198件。重複届出 5件を差引。）に基づき指導を実施しているが、施設構造物のデザイン化は動きなし。

➤全体の評価としては、A:75%、C:25%であった。

### ⑤ 公共施設の景観形成 (P.85)

- ・木津川市の都市景観のモデルとなるよう、花壇設置、植栽管理を概ね実施しているが、教育施設においては、前期期間において動きはなかった。

➤全体としては、A:100%であった。

### ⑥ 既成市街地の景観形成 (P.85)

- ・関係部署において、法等に基づく助言・指導が適切に行われている。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

### ⑦ 関西文化学術研究都市の景観形成 (P.86)

- ・学研景観部会への参加や地区計画（R3～R6 届け出の実績 564件：木津川台、木津南、木津中央、相楽リサーチ、高の原より算出）に基づき指導を実施している。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

### ⑧ 屋外広告物の規制・誘導 (P.86)

- ・条例及び規則による指導を実施

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

## （6）都市防災の方針

### 2）都市防災の方針

#### ① 治水・治山対策の推進 (P.88)

- ・土砂災害警戒区域指定や急傾斜地の用地買収は行われているが、小規模河川や樋門の改修は滞っている。

➤全体の評価としては、A:82%、C:18%で進捗は概ね図れている。

② 地震・火災対策の推進 (P.89)

- ・木造住宅耐震診断派遣 (31 件)・本格耐震改修 (11 件) が行われており、避難所等施設利用に係る協定を締結した。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

③ 市民の防災意識の向上 (P.90)

- ・各種ハザードマップ等を作成・改訂を実施。災害対策 (警戒) 本部内の体制の強化。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

### Ⅲ 地域別構想

#### (1) 既成市街地 (木津地域)

##### 3) 都市計画の方針

##### ① 土地利用及び市街地・集落形成の方針 (P.95)

- ・木津川市立地促進条例に基づく立地支援・推進や土地の有効活用は図っているが、JR 木津駅のターミナル機能充実については、鉄道接続を考慮したダイヤ改正が実施されている。
- ・公共下水道整備は R8 概成を目指し、狭隘道路整備事業の PR、空家等の適正管理に対する通知を行った。

➤全体の評価としては、A:67%、C:33%であった。

※後期追加キーワード (案)：木津川市立地促進条例

##### ② 交通施設の方針 (P.96)

- ・幹線道路は概ね歩道整備等が行われており、国土強靱化の一環で電線地中化を要望しているが、その他の道路は取り組み実績は無い。
- ・鉄道・バスにおいては、鉄道への接続がスムーズとなるよう目指したきのつバスのダイヤ改正が実施されている。

➤全体の評価としては、A:71%、C:29%であった。

※後期追加キーワード (案)：国土強靱化、きのつバス

##### ③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針 (P.97)

- ・公園・緑地に関して、公園照明灯の LED 化の維持管理を実施。
- ・河川においては、河川空間利用調査、サイクリングロードの整備、浚渫を行っている。一部の雨水排水施設の改修計画は策定されていない。

➤全体の評価としては、A:82%、C:18%であった。

※後期追加キーワード（案）：公園照明灯のLED化

## （２）木津駅東側地区及び城山台の一部

### 3）都市計画の方針

#### ① 土地利用及び市街地・集落形成の方針（P.100）

- ・木津駅東側地区の市街地形成に向けた検討および木津駅前東線沿道の土地利用の検討に対して、地権者団体と定期的な懇談を実施し、地権者の機運の高まりを注視している。

➤全体の評価としては、B:100%であった。

#### ② 交通施設の方針（P.101）

- ・木津高校アクセス道路整備は完了している。木津駅東側地区の道路整備に対する取り組みは無し。

➤全体の評価としては、A:50%、C:50%であった。

#### ③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針（P.101）

- ・方針は検討されていない。

➤全体の評価としては、C:100%と良好であった。

## （３）既成市街地（加茂地域）

### 3）都市計画の方針

#### ① 土地利用及び市街地・集落形成の方針（P.103）

- ・都市拠点の形成の観点では、地区計画による良好な市街地環境（景観）を維持している（R3～R6 届け出の実績20件）。
- ・地域特性に応じた良好な住環境の維持において、雨水排水対策として浚渫、空家調査等を実施。

➤全体の評価としては、A:63%、C:38%であった。

#### ② 交通施設の方針（P.104）

- ・幹線道路においては、一部路線の事業検討のみにとどまる。
- ・木津方面への連携軸の強化では、バイパス化工事は行われているが、加茂地域と城山台地区を結ぶ新たな骨格道路については、未検討。
- ・かもバスの運行やダイヤ改正等が行われている。

➤全体の評価としては、A:43%、B:29%、C:28%であった。

※後期追加キーワード（案）：かもバス

## ③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針（P.105）

- ・歴史的・文化的遺産が数多く分布するエリアにおいては、看板設置や観光案内の実施、イベント開催等を行っているが、風致地区指定の検討はされていない。

➤全体の評価としては、A:75%、C:25%であった。

※後期追加キーワード（案）：公園照明灯のLED化

## （４）既成市街地（山城地域）

## 3）都市計画の方針

## ① 土地利用及び市街地・集落形成の方針（P.109）

- ・都市拠点の形成においては、地区計画による住宅、商業機能の配置を実施しているものの、狭隘道路の解消をはじめ取り組み実績が無い事業が多い。
- ・良好な住環境の維持においては、河川堤防の強化（約 8 割）が行われているが、西澱樋門改修や一部地域の雨水排水対策の取り組みはされていない。
- ・地域活性化の推進においては、国道 24 号城陽井手木津川バイパスと主要地方道枚方山城線の延伸工事の進捗を注視している状況であり、国道 163 号との結節点でのにぎわい拠点整備として令和 5 年度 9 月に基本構想を策定した。

➤全体の評価としては、A:43%、B:14%、C:43%であった。

## ② 交通施設の方針（P.110）

- ・幹線道路である国道 24 号城陽井手木津川バイパスの早期整備として地形測量を実施。
- ・鉄道・バス交通の利便性向上に資するため、JR 上狛駅の改築ややましろバスの運行・ダイヤ改正が行われた。

➤全体の評価としては、A:50%、B:25%、C:25%であった。

※後期追加キーワード（案）：やましろバス

## ③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針（P.111）

- ・歴史的・文化的遺産等の保全・活用として、旧南都銀行上狛支店跡地を除き保全・活用事業が行われている。
- ・公園・緑地の整備・維持管理では、既存公園の修繕や不動川公園を広域的防災拠点に指定するなどの取り組みを行っているが、田護池周辺での憩いの場の整備は未検討。
- ・公共下水道整備については令和 8 年度概成に向けて、事業計画変更等を実施している。

➤全体の評価としては、A:67%、C:33%であった。

※後期追加キーワード（案）：不動川公園広域防災拠点整備基本構想

## （５）関西文化学術研究都市（兜台、相楽台、木津川台）

## 3）都市計画の方針

## ① 土地利用及び市街地・集落形成の方針（P.114）

- ・文化学術研究施設の機能を活かす地区の形成として、スマートけいはんなプロジェクトをはじめ、給食センター跡地をバイオものづくり研究開発用として土地を貸付している。

➤全体の評価としては、A:67%、C:33%であった。

### ② 交通施設の方針（P.116）

- ・バス交通等の利便性向上として、運行維持やダイヤ改正の取り組みが行われている。また、近鉄木津川台駅アクセス道路の整備として令和3年度に工事に着手し、都市計画道路山手幹線の早期開通促進のために調査・設計が行われている。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

### ③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針（P.116）

- ・公園・緑地の維持管理として、既存公園の修繕や公園照明灯のLED化を推進している。また、住民参加型維持管理および市民自主管理事業の取り組みも行っている。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

### ④ 都市景観の方針（P.116）

- ・学研景観計画及び府立地基準に基づき指導を実施している。

➤評価としては、A:100%であった。

## （6）関西文化学術研究都市（州見台、梅美台、城山台）

### 3）都市計画の方針

#### ① 土地利用と市街地・集落形成の方針（P.119）

- ・文化学術研究施設等の3件が新たに建設された。
- ・京都大学大学院農学研究科附属農場などの機能や波及効果を活かしたまちづくりの推進は、地域事業との連携促進を検討中である。

➤全体の評価としては、A:67%、B:33%であった。

#### ② 交通施設の方針（P.120）

- ・幹線道路においては、測量が行われ、道路改良事業が完了した箇所もあるが、加茂方面への連携強化等は未検討。
- ・バスは運行の維持とダイヤ改正が行われている。

➤全体の評価としては、A:67%、C:33%であった。

#### ③ 都市・自然環境及び歴史的資源の方針（P.121）

- ・公園・緑地では、公園照明灯のLED化を含めた修繕作業を実施し、歴史的資源の保全と活用では、大仏鉄道遺構めぐりのパンフレットの更新等を行った。また、住民参加型維持管理および市民自主管理事業の取り組みも行った。

➤全体の評価としては、A:80%、C:20%であった。



④ 都市景観の方針 (P.121)

- ・学研景観計画及び府立地基準に基づき指導の実施、及び地区計画 (R3~R6 届け出の実績 534件：木津南、木津中央) によって沿道緑化、敷地内緑化・まち並み景観の維持形成が行われた。

➤全体の評価としては、A:100%であった。

(7) 関西文化学術研究都市 (木津東地区)

3) 都市計画の方針 (P.124)

土地利用の方針

- ・土地区画整理事業や企業誘致、田園環境に配慮した宅地の整備は積極的に進捗している。

➤全体の評価としては、A:100%と良好であった。

(8) 関西文化学術研究都市 (木津北地区)

3) 都市計画の方針

○環境調和型研究開発ゾーン (P.127)

- ・里山保全の拠点整備、学習拠点としての活用、自然環境の保全活用と持続可能な社会への取り組み等、全て未検討。

➤全体の評価としては、C:100%であった。

○里山の維持再生ゾーン (P.127)

- ・生物多様性第2次木津川市地域連携保全活動計画に基づいて里山環境の保全・維持・再生に取り組んでいる。また、環境調査や活動団体による支援の実施等を実施しているが、持続的な農業や観光農園等の連携は未検討。

➤全体の評価としては、A:67%、C:33%であった。

※後期追加キーワード (案)：生物多様性第2次木津川市地域連携保全活動計画

(9) 農山村集落と農地、山林

3) 都市計画の方針

① 土地利用及び市街地・集落形成の方針 (P.130)

- ・生活基盤整備では、災害対策を促進し、擁壁工事や基礎調査等を実施している。また、公共下水道整備においては、市街化区域外を整備しない方針。
- ・持続可能な集落環境づくりにおいては、空家の維持管理や移住・交流フェアの開催を行っている。
- ・自然環境、歴史的・文化的遺産の保全と活用は、歴史的・文化的遺産の活用や誘客が積極的に行われている。

➤全体の評価としては、A:69%、B:8%、C:23%であった。